

新任ご挨拶

会長 鈴木 哲 夫

HOYA株式会社 代表取締役会長

平成6年度の総会で、皆様方のご推挙をうけニューガラスフォーラムの会長をお引き受けすることになりました。会員の皆さんのご意向を承り、副会長の方々とよく相談し、さらに通商産業省のご後援を賜り、この大任を果たしたいと存じますので、ご支援のほどお願い申し上げます。

優れた機能をもったニューガラスを先端技術分野に広く使って貰おうということで、産・官・学の連合体として発足したこのフォーラムが確固たる基盤を持って活動しているのを拝見して大変気を強くしております。このフォーラムが設立されたのが昭和60年7月でありますから、間もなく創立9周年を迎えようとしております。ニューガラスのメーカーはもとより、ユーザーのエレクトロニクスや精密機械などの関連企業、お役所、無機材料工学や電子工学を専門とする大学の先生方にご協力をお願いして奔走したのが昨日のここのように思い出され、感慨一入のものがあります。

さて、ニューガラスフォーラムには二つの大きな使命があると存じます。

第1は新しい時代のニーズに対応してニューガラス技術の開発と利用の促進をお手伝いすることです。

わが国の21世紀の発展を支える新産業は「マルチメディア」「地球環境」「新エネルギー」をキーワードとして展開することが予想されますが、幸にもニューガラスはこの三つのキーワードと密接な関連があります。ニューガラス技術はマルチメディアと環境を中軸とした新産業の発展を支えるキーテクノロジーであるといっても過言ではありません。当フォーラムの平成6年度事業計画においても、通産省等からの委託を受けて「高度情報化社会のインフラストラクチャーの整備にニューガラスがどのような役割を果たすことができるか」の調査や「廃棄物処理にガラス化技術がどのように貢献できるか」について研究を行うことにしております。

もう一つの大切な使命は、ニューガラス産業の発展を担う研究者や技術者の育成であります。ニューガラスの研究開発にはガラス技術の根幹を支える無機材料工学、エレクトロニクス技術、精密機械工学等多領域にまたがる学際的な知識が不可欠であります。セミナーや研究会の他に広く非晶質材料としてのガラスに関係する知識を体系的に勉強して貰うことが必要であります。最近、若者の理工系学部離れが憂慮されておりますが、大学における教育と企業のニーズのギャップを埋めるための活動も当フォーラムに課せられた大切な課題であると考えております。

このところ、素材産業を取り巻く環境は一段と厳しくなっておりますが、均整のとれた物性を持ち、新機能の創製が有望なガラス材料は21世紀に向けてのわが国のサバイバルと飛躍にとって不可欠な素材であり、これを推進しようとする当フォーラムの活動分野は今後益々広がり、そのニーズはより一層高くなると考えております。

皆様のご支援とご鞭撻を得て、わが国はもとより世界のニューガラス産業のさらなる発展に努力を傾注していきたいと念じております。